

校長	教頭	教頭

教科・科目	家庭・家庭基礎	単位数	2単位	学年・学科	1年・工業技術科、建築科、総合情報科
使用教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる(第一学習社)			担当者氏名	

学習の到達目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

年	月	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	4	家庭科の学び方・学習から実践へ	<ul style="list-style-type: none"> 「ホームプロジェクト」の意義と実施方法について理解する。 生活の中から課題を見出し、個人単位で主体的に計画を立てて問題の解決をはかる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 課題提出(夏休みの課題として取り組む)
		・ホームプロジェクトとは					
		・学校家庭クラブ活動とは	<ul style="list-style-type: none"> 「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度
		1章 これからの生き方と家族					
		第1節 生涯の生活設計					
		1. 生涯発達する自分一人となりのつながりのなかで	<ul style="list-style-type: none"> 生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、その課題を他者と関わりながら達成し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解する。 ライフイベントや人生の転機、あるいは家族の変化や社会変動などによって生じる課題を乗り越える際に、誰もが同じような方法や選択で達成するのではなく、その時の身近な他者や社会との関わりを通して一人一人が異なる過程をたどり、様々な生き方があることを理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出 定期考査
		2. 青年期を生きる	<ul style="list-style-type: none"> 生活の営みに必要な家族、友人、健康、金銭、もの、空間、技術、時間、情報など、生活する上で重要な要素が生活資源であることに気付き、それらに関わる情報を収集、整理することの重要性を理解する。 自立した生活を営むために、生涯を見通しながら、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任を持って行動することが重要であることへの理解を深める。 	○	○	○	
		3. キャリアの形成	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目指すライフスタイルを実現するために、職業選択などの具体的な事例を取り上げたりして考察し、生活設計を工夫する。 	○	○	○	
		4. ワーク・ライフ・バランスを求めて	<ul style="list-style-type: none"> 生活設計を通して社会の動きを見つめ、広い視野を持って生活を創造していくことや不測の事態にも柔軟に対応することの必要性を認識する。 固定的な性別役割分業意識の見直し、男女の平等と相互の協力などを取り上げ、生涯を見通した中で青年期をどのように生きるかについて理解を深める。 	○	○	○	
		第2節 家族・家庭と社会とのかかわり					
1. 家族・家庭・世帯	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的、文化的、社会的制度としての家族について理解できるようにする。 世帯の動向にみられる特徴とそれを規定する社会的要因を分析し、検討する。 	○	○	○			

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	評価方法		
1		2. 家族・家庭の働き	<ul style="list-style-type: none"> 家族形態の相違による家庭生活のあり方について検討し、その多様性を理解する。 家族の信頼関係によってつちかわれる精神的・社会的な人間形成の重要性について理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出 定期考査 		
		3. パートナーと出会う	<ul style="list-style-type: none"> 相互の尊重と信頼関係のもとで夫婦関係を築くこと、共に協力して家庭を築くことの意義や重要性について認識する。 	○	○	○			
		4. 結婚と変化する家族	<ul style="list-style-type: none"> 現代の家族・家庭の課題を経済や制度などの社会環境の変化と関連付けて理解する。 	○	○	○			
	5		5. 家族に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 婚姻、夫婦、親子、相続など家族に関する法律や社会制度の基礎的な理解を手がかりとして、現代の家族・家庭について理解を深める。 明治民法と現行民法を比較し、どのような違いがあるか、これまでに実現した家族法のおもな改正点、まだ実現していない制度などについて、理解する。 	○	○		○	
			2章 次世代をはぐくむ 第1節 子どもの発達						
			1. 次世代をはぐくむ	<ul style="list-style-type: none"> 先行する世代の者は、次の世代を担う子どもを健やかに育てる責任があり、子育ては、社会全体で支えていく必要があることを理解する。 子どもはこれからの社会を築いていくという視点から、子どもを生み育てることの意義や地域の一員として子どもの成長に関わることの意味について考えることができる。 	○	○		○	
			2. 命のはじまり	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理、胎児の発育と母体の変化を学ぶ。 胎児の環境としての母体について理解し、母体の健康管理の重要性と生命の尊さへの認識を深める。 母体と子どもの健康には、家族、特に父親の協力と、それを支える社会のしくみが必要であることを知る。 	○	○		○	
			3. 乳幼児の体の発達	<ul style="list-style-type: none"> 身体の発育や運動機能などの発達の概要を理解できるようにする。 乳幼児期は人間の発達の段階において最も発達が著しい重要な時期であることや、子どもの発達には個人差はあるが、一定の方向性や順序性があることを理解できるようにする。 	○	○		○	
	6		4. 乳幼児の心の発達	<ul style="list-style-type: none"> 言語、認知、情緒、社会性などの発達の概要と、それらの発達が密接に関連していることを理解できるようにする。 乳児期の親との関わりによる愛着の形成は、将来の人間関係の基礎となることを理解できるようにする。 	○	○		○	
			第2節 子どもの生活						
			1. 親と子のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児期は、その発達の段階に応じた親の働きかけが重要であることを親の保育態度と関連付けて理解できるようにする。 社会的自立のためには、子どもの発達に応じて基本的な生活習慣や社会的な規範を身に付けさせることが親や家族の重要な役割であることを理解できるようにする。 	○	○		○	
			2. 乳幼児の生活と安全	<ul style="list-style-type: none"> 健康管理と安全への配慮などについて理解できるようにする。 乳児の溢乳の対処や抱き方など、個々の子どもに応じた接し方を実践したり、安全や衛生に気を配り室内外の環境を整えたりすることの必要性を理解する。 	○	○		○	
3. 子どもの成長と遊び			<ul style="list-style-type: none"> 遊びが子どもの生活において重要であることを、遊びを通して様々な心身の発達が促されることを理解できるようにする。 	○	○	○			
		第3節 子育て支援と福祉							
		1. 地域社会と子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 家庭保育と集団保育を取り上げ、子どもの発達と環境との関わりについて理解できるようにする。 社会環境の変化による人間関係の希薄化、自然とふれ合う経験の不足、育児不安や孤立感、保育所不足と待機児童の問題などを取り上げ、子育て支援の必要性について理解できるようにする。 	○	○	○			

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	評価方法		
1		2. 未来を担う子どもの権利	<ul style="list-style-type: none"> 児童憲章，児童福祉法，児童の権利に関する条約などに示された児童福祉の理念についてもふれ，子どもの福祉について理解できるようにする。 子どもの貧困や虐待の問題などを取り上げ，現代の子どもを取り巻く社会環境の課題について理解できるようにする。 	○	○	○			
		5章 食生活をつくる 第1節 人の一生と食事							<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出 定期考査
		1. 私たちと食事	<ul style="list-style-type: none"> 日常の食生活を振り返り，健康や生活習慣に直結する食事について学ぶ意欲を高める。 食事の役割を認識し，食が心身を育むうえでも大切なものであることを理解するとともに，人間の体の生理的周期を知り，なぜ朝食をきちんととる必要があるかを考える。 	○	○	○			
		2. 健康に配慮した食生活	<ul style="list-style-type: none"> 現代の食生活の実情を知り，健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。 栄養摂取のアンバランスや不規則な食生活によって，生活習慣病や心身の不調がもたらされることを知る。 食生活にかかわる情報を適切に判断することができる。 	○	○	○			
		3. 食生活の変化	<ul style="list-style-type: none"> PFC比率に注目し，日本は脂質のとりすぎの傾向にあることを理解する。 家族や仲間といっしょに食べることのメリットを理解し，食事を大切にすることができる。 	○	○	○			
		4. 持続可能な食生活	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食料自給率の低下や輸入依存の実情を知り，その原因を探るとともに，食料の安定供給について考える。 無駄のない食材の使用や，環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考える。 	○	○	○			
	7	第2節 栄養と食品							
	1. 人体と栄養	<ul style="list-style-type: none"> 健康な生活を送るうえで必要な栄養素とそのおもな働きについて理解する。 食品中の成分をどのように分解し，人体の成分として利用しているか，その過程を学ぶ。 	○	○	○				
	2. 炭水化物	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー源としての糖質，腸内環境を保つ食物繊維について学ぶ。 食物繊維を含む食品の重要性について学び，必要量の摂取について考える。 	○	○	○				
	3. 脂質	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー源として，また体構成物質として働く脂質の役割について学ぶ。 脂肪酸の種類とそれを多く含む食品を知り，健康的な摂取を質と量の両面から学ぶ。 	○	○	○				
4. たんぱく質	<ul style="list-style-type: none"> 体の組織をつくるたんぱく質とそれを多く含む食品について学び，他の食物との組み合わせによるたんぱく質の補足効果を理解する。 アミノ酸価についても学習する。 	○	○	○					
5. 無機質（ミネラル）	<ul style="list-style-type: none"> 無機質の種類と働き，それらを多く含む食品について学ぶ。 特に，カルシウムと骨形成，鉄と貧血の関係などを理解する。 	○	○	○					
6. ビタミン	<ul style="list-style-type: none"> ビタミンの種類と働き，それらを多く含む食品について学ぶ。 	○	○	○					
7. し好食品と健康増進のための食品	<ul style="list-style-type: none"> 調理加工食品や，調味料・香辛料などの種類と働きについて基本を理解する。 健康増進のための食品について基本的な理解をはかるとともに，サプリメントの効用や扱い方についても考える。 	○	○	○					
	第3節 食生活の安全のために								
1. 食品の選択と保存	<ul style="list-style-type: none"> 各食品の保存法について取り上げ，理解する。 消費期限・賞味期限をもとに食品を正しく選ぶ力を養う。 食品表示，栄養表示を通して内容を読みとり，身体状況に応じた食品を選択できるようにする。 	○	○	○					

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	評価方法
1		2. 食品の安全と衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・食中毒にはどのような種類があるかを知り、食品の取り扱い、手の清潔、台所や調理器具の衛生などの面での注意事項について学ぶ。 ・食品添加物の用途を理解するとともに、食品に含まれている食品添加物の名称・使用目的などを調べ、購入に際しての選択法を身につける。 	○	○	○	
		【夏休みの課題】 ホームプロジェクト（発表2時間） ・やんばる弁当甲子園		○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提出 ・発表
2	9	第4節 食生活をデザインする					
		1. 栄養バランスのよい食事	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準について理解する。 ・身体活動レベルについて理解し、そのときの自分がどの身体活動レベルにあたるかを確認する。 ・自分および家族の食事摂取基準について調べ、家族の栄養摂取量の平均がいくらになるか求める。 	○	○	○	
		2. 食品群と摂取量のめやす	<ul style="list-style-type: none"> ・食事摂取基準を満たすためには、どの食品をどれだけ食べればよいかというめやすを示した「食品群」について学習する。 ・「食品群別摂取量のめやす」を活用できるようにする。 	○	○	○	
		3. ライフステージと食事	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージごとに、必要な栄養素や嗜好の違いを理解する。 	○	○	○	
		4. 献立作成の手順	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに合わせた食事計画を立て、1日3食のバランスがとれた形で作れるようにする。 ・栄養・嗜好・味わい・予算・調理時間などを考えて合理的に献立が作成できるようにする。 	○	○	○	
		5. 調理の基本 ○調理実習（4回） （1～2ヶ月に一度の間隔で実習を計画する。）	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の選択・計量・器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。 ・日本料理・西洋料理・中国料理の盛りつけと配膳ができ、それぞれのマナーを心得て食事ができるようにする。 	○	○	○	
10		8章 経済生活をつくる 第1節 私たちの暮らしと経済					<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート提出 ・定期考査
		1. 人生とお金	<ul style="list-style-type: none"> ・個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることを理解する。 ・家族のリスクへの対策も考慮すると、短期・長期の両面からの経済計画が必要であることを理解する。 	○	○	○	
		2. 収入と支出のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の収入と支出を通して家計の構造を理解する。 ・家庭の生活を支える収入と支出の運営など、家計の管理について理解する。 	○	○	○	
		3. 将来の経済生活を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭経済と国民経済とのかかわり、経済社会の変化が家庭経済にさまざまな影響をおよぼしていることを理解し、家庭の経済計画、予算計画の必要性を認識する。 ・経済現象に対して、正確な知識や情報を収集し、主体的に判断し行動する態度を身につける。 	○	○	○	
		第2節 消費者問題を考える					
		1. 契約とは	<ul style="list-style-type: none"> ・財・サービスの購入はすべて契約であることを知り、契約の重要性を理解する。 ・消費者被害の事例を通して、消費者被害の状況を理解し、消費者被害が起こる原因を考える。 ・契約した後でも、考え直して解約できる方法があることを理解する。 	○	○	○	
		2. 消費者問題はなぜ起こるのか	<ul style="list-style-type: none"> ・大量生産・大量消費の時代に、商品の購入と消費をめぐって消費者側が不利益や被害を受けたことを契機に消費者問題が生じたことを理解する。 ・消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動を取っていかうという態度を養う。 ・有用な生活情報を取捨選択して収集・活用していくことが重要であることを理解する。 	○	○	○	
	11	3. 多様化する支払い方法とリスク防止	<ul style="list-style-type: none"> ・販売方法、支払い方法が多様であることを知り、購入時に適切な判断が必要であることを理解する。 ・消費者信用について理解し、利用に際しては、慎重に行う意識と対応策を身につける。 	○	○	○	

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	評価方法	
2		4. 消費者の自立と行政の支援	<ul style="list-style-type: none"> 消費者関連のさまざまな法律が制定され、国や各都道府県の機関が設置されていることを理解する。 消費者は、生産者や行政に自分たちの意向を伝え、その実現に向けての義務と責任があることを理解する。 さまざまな消費者問題の発生の中で、消費者の権利が制定されたが、消費者の責任についても提唱された。消費者の権利の保障とともに、消費者一人ひとりに責任があることも理解する。 	○	○	○		
		第3節 持続可能な社会をめざして						
		1. 消費生活と持続可能な社会	<ul style="list-style-type: none"> 現代の消費生活が資源を枯渇させ、環境に悪影響をおよぼしていることについて考えさせる。 持続可能な社会の実現のためには、私たち自身が環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。 次世代に負の財産を残さないよう、環境の保全に取り組む責任があることを認識する。 	○	○	○		
		2. 消費者市民社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の少ない生活をめざして、生活意識や生活様式を見直し、環境に調和したライフスタイルの確立をはかる。 環境にやさしい消費行動を具体的な項目で示し、周囲と協力しながら実践する姿勢を身につける。 消費行動を通して社会に参画することができる。 	○	○	○		
12		3章 充実した生涯へ						<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出 定期考査
		1. 超高齢社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を見通して高齢期を捉えることができるようになる。 長くなった人生を、可能な限り充実させるには何が必要か、自分たちはどう老いていきたいかを考える。 	○	○	○		
		2. 人生のなかで高齢期をとらえる	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解する。 加齢にともなってすべての機能が衰えるわけではなく、成熟期として捉えられる面もあることや、個人差が大きいことを理解する。 	○	○	○		
		3. 高齢期の生活	<ul style="list-style-type: none"> ノーマライゼーションの視点から、高齢期になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる社会について理解する。 	○	○	○		
		4. 高齢社会を支える	<ul style="list-style-type: none"> 近年の高齢者福祉の基本的な理念や高齢者福祉サービスなど代表的なものについてふれた上で、社会の現状と今後の解決すべき課題について理解する。 老老介護、高齢者虐待などの現代の高齢者介護に関する事例を取り上げて、理解する。 	○	○	○		
		5. 充実した高齢期へ	<ul style="list-style-type: none"> 高齢期の人たちにとっての、地域での生活の大切さを理解する。 	○	○	○		
		4章 ともに生きる						
1. 社会保障制度と社会的連帯	<ul style="list-style-type: none"> 社会的制度、社会福祉の基本的な理念、ともに支え合って生きる社会の考え方について理解する。 国や自治体などの制度や行政サービスなどの制度としての支援体制という支え合いの構造について理解する。 	○	○	○				
2. 人の多様性と社会参加	<ul style="list-style-type: none"> 異なる背景を持つ人々がともに支え合いながら生きていくことの必要性、関連する現代の社会の現状について理解する。 ノーマライゼーションの理念を土台にして、地域のバリアフリーやユニバーサルデザインなど具体的事例を通して考察する。 	○	○	○				
3	1	6章 衣生活をつくる 第1節 人の一生と被服						<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出 定期考査
		1. 私たちと衣生活	<ul style="list-style-type: none"> 被服は、気候・風土によって異なる一方、人生という長い時間軸でみると、ライフステージによっても違ってくることを理解する。 乳幼児期、児童期・青年期、壮年期、高齢期ごとに、衣生活の留意点を学ぶ。 	○	○	○		
		2. 被服の機能－保健衛生上の機能	<ul style="list-style-type: none"> 被服の持つ保健衛生的な機能を生かし、望ましい着装について考える。 人間は体温を一定に保つため、被服の素材やデザイン、着装の工夫によって快適な被服気候をつくり出したことを理解する。 	○	○	○		

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	評価方法		
3		3. 被服の機能－社会生活上の機能	<ul style="list-style-type: none"> 被服の持つ社会的・文化的な機能を生かし、望ましい着装について考える。 すべての人が楽しめる衣生活の実現がめざされていることを理解する。 	○	○	○			
		4. 被服の選び方	<ul style="list-style-type: none"> アパレル産業の発達にともない、現代の私たちの被服のほとんどが既製服化している現状を知る。 被服を購入する際には、品質表示をもとに取り扱い表示やサイズ、着心地、動きやすさ、縫製の善し悪しなどを調べることの重要性を理解する。 取り扱い表示の種類と意味、サイズ表示の見方について理解する。 	○	○	○			
		第2節 被服材料と管理							
		1. 被服の素材	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身のまわりの布がどのような繊維でつくられているかに関心を持つようにする。 代表的な布として、織物と編物の違いを知る。織物については、三原組織の交錯の仕方、編物では、メリヤス組織について理解し、それぞれ身近な事例を取り上げて確認する。 着心地に影響する布の性能について理解し、どのような布が着心地がよいかを考える。 さまざまな用途や目的に応じて開発された新しい被服材料について知る。 	○	○	○			
		2. 洗濯方法と表示	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯には湿式洗濯と乾式洗濯があり、それぞれの特性を理解したうえで、品質に応じて洗濯することを学習する。 	○	○	○			
		3. 洗濯のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の湿式洗濯に用いられる洗剤について、その働きや成分を知り、環境に配慮した洗濯の工夫について考える。 	○	○	○			
		4. 被服の手入れと保管	<ul style="list-style-type: none"> 被服の劣化を防ぐためには、よい被服を選択すること、手入れをすることで適切に管理することが必要であることを理解する。 被服の手入れについて、主体的に取り組む態度を養う。 漂白・のりつけ・アイロンかけなどの手順を知る。 	○	○	○			
		第3節 これからの衣生活							
		1. 衣文化の継承と創造	<ul style="list-style-type: none"> 着物という日本の伝統衣装についての理解を深め、伝承に努めるとともに、自由な発想で着こなし、個性を表現できる力を身につける。 おもに冠婚葬祭などで着用されている「和服」と、西洋から入ってきた「洋服」との違いを知る。 和服に代表される平面構成と、洋服に代表される立体構成との違いを調べ、特徴を理解する。 	○	○	○			
		2. 持続可能な衣生活	<ul style="list-style-type: none"> 近年の消費行動の多様化・個性化が多量の死蔵品を生む要因となっていることを理解し、消費のあり方を考える。 中古衣料のリユースやリフォームの工夫をする。 衣生活の面からできる、環境に負荷を与えない行動を考え、実践する。 	○	○	○			
		2	7章 住生活をつくる 第1節 人の一生と住まい						<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出 定期考査
		1. 私たちと住まい	<ul style="list-style-type: none"> 人にとってなぜ住まいが必要なのか、住まいの発生にさかのぼって考える。 昔の住宅から現代の住宅までの日本における住まいの変化を理解し、それぞれの時代の家族のあり方や住まい方を考える。 日本各地に見られる特徴的な住まいを比較し、住まいは、条件の異なる地域の気候や風土に応じてつくられたことを理解する。 	○	○	○			
		2. 平面図の活用	<ul style="list-style-type: none"> 自分の日常生活を振り返り、その生活行為と生活時間のつながりや住まいの機能について理解する。 家族の生活行為と住空間とのかかわり、生活行為や動作に必要な広さ、動線などについて理解する。 住んでいる人の暮らしを平面図から読みとり、望ましい間取りを考えることのできる能力を養う。 	○	○	○			
3. 長く住み続けるために	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの耐久年数を維持するためのメンテナンスについて理解を深める。 戸建て住宅と集合住宅の違いについて調べ、今後の住生活の課題について考える。 	○	○	○					

令和5年度シラバス

校長	教頭	教頭

教科・科目	家庭・家庭総合	単位	2	学年・学科	2年・商業科、地域産業科
使用教科書	高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる(第一学習社)			担当者氏名	

学習の到達目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

週	月	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	4	家庭科の学び方ー学習から実践へ ・ホームプロジェクトとは	<ul style="list-style-type: none"> 「ホームプロジェクト」の意義と実施方法について理解する。 生活の中から課題を見出し、個人単位で主体的に計画を立てて問題の解決をはかる。 	○	○	○	・課題提出(夏休みの課題として行う)
		1章 これからの生き方と家族 第1節 生涯の生活設計					・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート提出 ・定期考査
		1. 生涯発達する自分一人一人とのつながりのなかで	<ul style="list-style-type: none"> 生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、その課題を他者と関わりながら達成し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解する。 ライフイベントや人生の転機、あるいは家族の変化や社会変動などによって生じる課題を乗り越える際に、誰もが同じような方法や選択で達成するのではなく、その時の身近な他者や社会との関わりを通して一人一人が異なる過程をたどり、様々な生き方があることを理解する。 	○	○	○	
		2. 青年期を生きる	<ul style="list-style-type: none"> 生活の営みに必要な家族、友人、健康、金銭、もの、空間、技術、時間、情報など、生活する上で重要な要素が生活資源であることに気付き、それらに関わる情報を収集、整理することの重要性を理解する。 自立した生活を営むために、生涯を見通しながら、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任を持って行動することが重要であることへの理解を深める。 	○	○	○	
		3. キャリアの形成	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目指すライフスタイルを実現するために、職業選択などの具体的な事例を取り上げたりして考察し、生活設計を工夫する。 	○	○	○	
	5	4. ワーク・ライフ・バランスを求めて	<ul style="list-style-type: none"> 生活設計を通して社会の動きを見つめ、広い視野を持って生活を創造していくことや不測の事態にも柔軟に対応することの必要性を認識する。 固定的な性別役割分業意識の見直し、男女の平等と相互の協力などを取り上げ、生涯を見通した中で青年期をどのように生きるかについて理解を深める。 	○	○	○	

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	5	第2節 家族・家庭と社会とのかかわり					<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート提出 ・定期考査
		1. 家族・家庭・世帯	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的、文化的、社会的制度としての家族について理解できるようにする。 ・世帯の動向にみられる特徴とそれを規定する社会的要因を分析し、検討する。 	○	○	○	
		2. 家族・家庭の働き	<ul style="list-style-type: none"> ・家族形態の相違による家庭生活のあり方について検討し、その多様性を理解する。 ・家族の信頼関係によってつかわれる精神的・社会的な人間形成の重要性について理解する。 	○	○	○	
		3. パートナーと出会う	<ul style="list-style-type: none"> ・相互の尊重と信頼関係のもとで夫婦関係を築くこと、共に協力して家庭を築くことの意義や重要性について認識する。 	○	○	○	
		4. 結婚と変化する家族	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の家族・家庭の課題を経済や制度などの社会環境の変化と関連付けて理解する。 	○	○	○	
		5. 家族に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・婚姻、夫婦、親子、相続など家族に関する法律や社会制度の基礎的な理解を手がかりとして、現代の家族・家庭について理解を深める。 ・明治民法と現行民法を比較し、どのような違いがあるか、これまでに実現した家族法のおもな改正点、まだ実現していない制度などについて、理解する。 	○	○	○	
	6	3章 充実した生涯へ					<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート提出 ・定期考査
		1. 超高齢社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通して高齢期を捉えることができるようになる。 ・長くなった人生を、可能な限り充実させるには何が必要か、自分たちはどう老いていきたいかを考える。 	○	○	○	
		2. 人生のなかで高齢期をとらえる	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解する。 ・加齢にともなってすべての機能が衰えるわけではなく、成熟期として捉えられる面もあることや、個人差が大きいことを理解する。 	○	○	○	
		3. 高齢期の生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーションの視点から、高齢期になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる社会について理解する。 ・高齢期の就労問題などを基に、高齢期の状況を把握したり、祖父母や身近な高齢者から生きがい、社会参加などについて聞き取ったりするなどの活動を取り入れる。 	○	○	○	
		4. 高齢社会を支える	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の高齢者福祉の基本的な理念や高齢者福祉サービスなど代表的なものについてふれた上で、社会の現状と今後の解決すべき課題について理解する。 ・老老介護、高齢者虐待などの現代の高齢者介護に関する事例を取り上げて、理解する。 	○	○	○	
		5. 充実した高齢期へ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期の人たちにとっての、地域での生活の大切さを理解する。 	○	○	○	
	7	4章 ともに生きる					<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート提出 ・定期考査
		1. 社会保障制度と社会的連帯	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的制度、社会福祉の基本的な理念、ともに支え合って生きる社会の考え方について理解する。 ・国や自治体などの制度や行政サービスなどの制度としての支援体制という支え合いの構造について理解する。 	○	○	○	
		2. 人の多様性と社会参加	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる背景を持つ人々がともに支え合いながら生きていくことの必要性、関連する現代の社会の現状について理解する。 ・ノーマライゼーションの理念を土台にして、地域のバリアフリーやユニバーサルデザインなど具体的事例を通して考察する。 	○	○	○	
2	9	6章 衣生活をつくる 第1節 人の一生と被服					<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート提出 ・定期考査
		1. 私たちと衣生活	<ul style="list-style-type: none"> ・被服は、気候・風土によって異なる一方、人生という長い時間軸で見ると、ライフステージによっても違ってくことを理解する。 ・乳幼児期、児童期・青年期、壮年期、高齢期ごとに、衣生活の留意点を学ぶ。 	○	○	○	

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	評価方法	
2	9	2. 被服の機能－保健衛生上の機能	<ul style="list-style-type: none"> 被服の持つ保健衛生的な機能を生かし、望ましい着装について考える。 人間は体温を一定に保つため、被服の素材やデザイン、着装の工夫によって快適な被服気候をつくり出してきたことを理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出 定期考査 	
		3. 被服の機能－社会生活上の機能	<ul style="list-style-type: none"> 被服の持つ社会的・文化的な機能を生かし、望ましい着装について考える。 すべての人が楽しめる衣生活の実現がめざされていることを理解する。 	○	○	○		
		4. 被服の選び方	<ul style="list-style-type: none"> アパレル産業の発達にともない、現代の私たちの被服のほとんどが既製服化している現状を知る。 被服を購入する際には、品質表示をもとに取り扱い表示やサイズ、着心地、動きやすさ、縫製の善し悪しなどを調べることの重要性を理解する。 取り扱い表示の種類と意味、サイズ表示の見方について理解する。 	○	○	○		
	第2節 被服材料と管理						<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出 定期考査 	
	10		1. 被服の素材	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身のまわりの布がどのような繊維でつくられているかに関心を持つようにする。 代表的な布として、織物と編物の違いを知る。織物については、三原組織の交錯の仕方、編物では、メリヤス組織について理解し、それぞれ身近な事例を取り上げて確認する。 着心地に影響する布の性能について理解し、どのような布が着心地がよいかを考える。 さまざまな用途や目的に応じて開発された新しい被服材料について知る。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出 定期考査
			2. 洗濯方法と表示	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯には湿式洗濯と乾式洗濯があり、それぞれの特性を理解したうえで、品質に応じて洗濯することを学習する。 	○	○	○	
			3. 洗濯のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の湿式洗濯に用いられる洗剤について、その働きや成分を知り、環境に配慮した洗濯の工夫について考える。 	○	○	○	
			4. 被服の手入れと保管	<ul style="list-style-type: none"> 被服の劣化を防ぐためには、よい被服を選択すること、手入れをすることで適切に管理することが必要であることを理解する。 被服の手入れについて、主体的に取り組む態度を養う。 漂白・のりつけ・アイロンかけなどの手順を知る。 	○	○	○	
		第3節 これからの衣生活						<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出 定期考査
			1. 衣文化の継承と創造	<ul style="list-style-type: none"> 着物という日本の伝統衣装についての理解を深め、伝承に努める。 おもに冠婚葬祭などで着用されている「和服」と、西洋から入ってきた「洋服」との違いを知る。 和服に代表される平面構成と、洋服に代表される立体構成との違いを調べ、特徴を理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出 定期考査
2. 持続可能な衣生活			<ul style="list-style-type: none"> 近年の消費行動の多様化・個性化が多量の死蔵品を生む要因となっていることを理解し、消費のあり方を考える。 中古衣料のリユースやリフォームの工夫をする。 衣生活の面からできる、環境に負荷を与えない行動を考え、実践する。 	○	○	○		
第4節 被服の製作								
		1. 私たちの被服ができるまで	<ul style="list-style-type: none"> 私たちが日常着用している被服（洋服）を観察し、その構造を知る。 被服製作の手順を理解する。手づくりを部分的に加えることや被服を製作することが計画できるようにする。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出 定期考査 	
		2. 体型と採寸	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身体寸法にあわせて、既製服を正しく選ぶための採寸の方法を学ぶ。 	○	○	○		
		3. 被服製作の基本	<ul style="list-style-type: none"> 被服製作に必要な基礎的な知識・技術を身につける。 具体的には、縫うために必要な用具、布地の厚さと針と糸、縫いしろのしまつ、布地の幅と布地の表、しるしつけ・裁断、アイロンかけ、しつけなどを扱う。 	○	○	○		
11	被服製作実習	<ul style="list-style-type: none"> 平面構成の被服づくりを学ぶ。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 実習作品の提出 		
12	①エプロン	<ul style="list-style-type: none"> ミシンの使い方を学び、基礎的な縫製技術を身に付ける。 						

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	評価方法	
3	1	8章 経済生活をつくる 第1節 私たちの暮らしと経済					<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート提出 ・定期考査 	
		1. 人生とお金	<ul style="list-style-type: none"> ・個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることを理解する。 ・家族のリスクへの対策も考慮すると、短期・長期の両面からの経済計画が必要であることを理解する。 	○	○	○		
		2. 収入と支出のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の収入と支出を通して家計の構造を理解する。 ・家庭の生活を支える収入と支出の運営など、家計の管理について理解する。 	○	○	○		
		3. 将来の経済生活を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭経済と国民経済とのかかわり、経済社会の変化が家庭経済にさまざまな影響をおよぼしていることを理解し、家庭の経済計画、予算計画の必要性を認識する。 ・経済現象に対して、正確な知識や情報を収集し、主体的に判断し行動する態度を身につける。 	○	○	○		
	2	第2節 消費者問題を考える						<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート提出 ・定期考査
		1. 契約とは	<ul style="list-style-type: none"> ・財・サービスの購入はすべて契約であることを知り、契約の重要性を理解する。 ・消費者被害の事例を通して、消費者被害の状況を理解し、消費者被害が起こる原因を考える。 ・契約した後でも、考え直して解約できる方法があることを理解する。 	○	○	○		
		2. 消費者問題はなぜ起こるのか	<ul style="list-style-type: none"> ・大量生産・大量消費の時代に、商品の購入と消費をめぐって消費者側が不利益や被害を受けたことを契機に消費者問題が生じたことを理解する。 ・消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動を取っていかうという態度を養う。 ・有用な生活情報を取捨選択して収集・活用していくことが重要であることを理解する。 	○	○	○		
		3. 多様化する支払い方法とリスク防止	<ul style="list-style-type: none"> ・販売方法、支払い方法が多様であることを知り、購入時に適切な判断が必要であることを理解する。 ・消費者信用について理解し、利用に際しては、慎重に行う意識と対応策を身につける。 	○	○	○		
		4. 消費者の自立と行政の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者関連のさまざまな法律が制定され、国や各都道府県の機関が設置されていることを理解する。 ・消費者は、生産者や行政に自分たちの意向を伝え、その実現に向けての義務と責任があることを理解する。 ・さまざまな消費者問題の発生の中で、消費者の権利が制定されたが、消費者の責任についても提唱された。消費者の権利の保障とともに、消費者一人ひとりに責任があることも理解する。 	○	○	○		
	3	第3節 持続可能な社会をめざして						<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート提出 ・定期考査
1. 消費生活と持続可能な社会		<ul style="list-style-type: none"> ・現代の消費生活が資源を枯渇させ、環境に悪影響をおよぼしていることについて考えさせる。 ・持続可能な社会の実現のためには、私たち自身が環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。 ・次世代に負の財産を残さないよう、環境の保全に取り組む責任があることを認識する。 	○	○	○			
	2. 消費者市民社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の少ない生活をめざして、生活意識や生活様式を見直し、環境に調和したライフスタイルの確立をはかる。 ・環境にやさしい消費行動を具体的な項目で示し、周囲と協力しながら実践する姿勢を身につける。 ・消費行動を通して社会に参画することができる。 	○	○	○			

校長	教頭	教頭

科目名	家庭総合		教科名	家庭（商業科・地域産業科）	
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	

1 科目「家庭総合」について

学習の到達目標	1. 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。 2. 学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3. 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
使用教科書	開隆堂「家庭総合 明日の生活を築く」

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生, 生活全般について関心をもち, その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身につけている。	人の一生, 生活全般について見直し, 生活課題を主体的に解決するために思考を深め, 適切に判断し, 工夫・創造する能力を身につけている。	人の一生, 生活全般に関する基礎的・基本的な技能を総合的に身につけている。	人の一生, 生活全般に関する基礎的・基本的な知識を総合的に身につけている。
<ul style="list-style-type: none"> 出席状況 提出物 平常の学習活動 学習態度 自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> 観察力 発表表現における創意工夫やアイデア 発表表現力やレポートの文章表現力 	<ul style="list-style-type: none"> 発表表現における創意工夫やアイデア 各種機器の活用能力等 調理技術 	<ul style="list-style-type: none"> 発表内容 レポート内容

3. 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

4. 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価方法	100点法	5段階評価
十分に理解できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	80～100	5
十分に理解できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうちで、特に程度の低いもの	0～34	1

※各学期において当該科目が時数不足になった場合は「評価保留」となり「0」と表記する。

5. 年間学習計画及び評価方法等

評価の観点のポイント・・・a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:技能 d:知識・理解

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	考查範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
1 学期	4	28	第2部 第1章 食べる 1 人間と食べ物 2 食品と栄養 3 食品の衛生と安全 4 食事を整える 5 これからの食生活 ○調理実習（6回） （1～2ヶ月に一度の間隔で実習を取り入れる。）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の食生活を振り返る。 ・ 日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ・ 日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。 ・ 食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・ 青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ・ 食生活の自立に必要な基本的な調理技術を科学的な視点から学び、日常食を作れるようになる。 ・ 日本や地域の食文化を見直し、食文化を主体的に継承できるようになる。 ・ 食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 ・ 生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。 	一学期期末考査	○	○		○
	5					○	○		○
	6					○	○	○	○
	7					○	○	○	○
			【夏休みの課題】 やんばん弁当甲子園						
2 学期	9	22	第1部 第3章 子どもの発達と保育・福祉 1 子どもの発達と生活 2 子どもとかわる 3 親の役割と子育て支援 4 子どもの権利と福祉 ○絵本製作 ○妊婦疑似体験 ○オムツ換え体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のこれまでの育ちを振り返り、子どもの発達について理解する。 ・ 出産前後の健康管理と子どもの発達の様子および発達段階を知る。 ・ 人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わり方の大切さを学ぶ。 ・ 遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 ・ 子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。 ・ 子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。 ・ 児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 	2学期期末考査	○	○		○
	10					○	○	○	○
	11					○	○	○	○
						○	○		○
						○	○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	考查範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
2 学 期	12	6	第2部 第3章 住まう 1 人間と住まい 2 さまざまな住まいと暮らし方	<ul style="list-style-type: none"> ・住生活の文化に関心を持ち安全で快適な住居の機能について理解する。 ・気候や風土に応じた住居の特徴を理解する ・生涯を見通した住生活について考える ・住居の平面図を理解し、よりよい住空間について考える ・家族構成やライフステージの変化と住要求の関係について理解する 		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>
						<input type="radio"/>			<input type="radio"/>
3 学 期	1 2	12	3 快適な住まい 4 安全な住まい 5 まちづくりと住まい	<ul style="list-style-type: none"> ・快適かつ健康的な住居に必要な機能について理解する ・住空間の環境について考え、住生活の現状と住宅政策や法規等の基本理念などを理解する ・安全で快適な住生活を営むことができる住居の条件を知る。 ・住まいの維持管理とその計画についての必要性を考える。 ・災害に対する理解を深め、自らの生活における災害意識を高める。 ・安全な住まいや地域コミュニティの必要性に気付く。 ・社会の状況によって求められる住宅機能は変化してきたことを知る ・エネルギー問題について理解し、環境に配慮した住まいについて考える。 	3 学 期 期 末 考 査	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
						<input type="radio"/>			<input type="radio"/>
						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

令和5年度シラバス

校長	教頭	教頭

教科・科目	家庭・服飾手芸	単位数	2単位	学年・学科	2年・総合選択
使用教科書	なし			担当者氏名	

学習の到達目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的な手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 手芸の種類と特徴及び変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 手芸品の製作を目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
手芸の種類と特徴及び変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	手芸品の製作を目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点のポイント		
					a	b	c
1 学 期	4	1	○服飾手芸を学ぶにあたって	・服飾手芸の目標や内容、学習方法について理解する。			○
		5	○基礎縫い（手縫い・ミシン）	・基本的な縫い方を習得する 手縫い：並縫い・まつり縫い・半返し縫い・ボタン付け ミシン：模様縫い	○	○	○
	5 6	12	○被服検定4級の取り組み	・検定試験4級を受験することで、基本的な縫製技術を習得する。	○	○	○

	7	6	○作品計画書 ・材料準備 ・作品製作	・各自で取り組む作品製作書を作成し、 作品を完成させる。 作品例：クッション、ランチマット、 コースター、刺繍、パッチワーク、 ぬいぐるみ、ビーズ小物、編物等	○	○	○
2 学 期	9	16	○被服検定3級の取り組み ・作品製作 ・	・ショートパンツの制作を通して、立体構 成の特徴を理解させ、技術を身につけ させる。 ・各自で取り組む作品製作書を作成する。 作品例：クリスマス、お正月、節分 等の飾り物、実用品(バック、 クッション等)	○	○	○
	11	14	○作品計画書 ・材料準備 ・作品製作		○	○	○
	12				○	○	○
3 学 期	1	6					
	2	6	○雑巾づくり	・次年度、各クラスへ配布して活用する。	○	○	○
	3	3	○作品発表会、評価会 ○最終計画書(自己評価)提出	・作品発表会と生徒相互による評価会を 行う。 ・最終計画書提出により、自己評価を行 う。		○	○
					○	○	○